横浜市立 新羽小学校　　学校評価報告書　　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

重点取組分野	令和　元　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	① 学力・学習状況調査の結果や本校の児童の実態をふまえ、児童の興味関心に応じた教材や体験活動を重視した授業を展開して、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成を目指す。 ②カリ・マネ要領を活用し、身近な地域材・人材を活用した「社会に開かれた教育課程」を創造する。	①学年研で授業の展開を話題にし、児童が興味関心をもてる学習計画を工夫した。児童の実態を踏まえ、体験的な活動を取り入れたが、自ら学ぼうとする意欲はあと一歩である。 ②地域材・人材とかかわることで、活動が豊かになった。さらに活用できるように材を整理したい。	B
豊かな心	①道徳の教科書を活用し、子どもたちが自らを考え、他者の考えを理解するための指導法を深める。 ②身近にある様々な人権にかかわる問題を職員が自分の問題として受け止め、積極的に人権啓発研修に取り組む。	①教材を扱う中で役割演技や友達とのやり取りをすることで、道徳的価値に気づき、自らを振り返ることができるようにした。 ②人権研修を通して職員が人権感覚を磨き、誰もが安心して豊かに生活できるように、互いを思いやることの大切さを伝えてきた。	B
健やかな体	① 体育科の教育課程を体育館・校庭を連続して使用できるように編成することで、子どもの学びの連続による、より一層の体力向上を図る。 ②学校保健委員会で食育を取り上げ、健康な生活が送れるよう基本的な知識・習慣を身につける。	①体育館や校庭を連続して使用できるので、学びがつながり、高まっていった。 ②学校保健委員会で、カルシウムについて分かりやすく発信したので、食に対する意識づくりができてきている。しかし、嫌いなものは食べなくてもよいと考えている児童がいるので、さらなる啓蒙が必要である。	B
児童生徒指導	①子どもの実態を細やかに把握し、情報共有を図るとともに、指導内容を確認し、共通理解の基、ぶれない指導に全職員で取り組む。 ②課題につながる行動については、迅速に対応し、早期解決を図る。	①学年研や職員会議で児童の情報を共有し、複数が同じ姿勢で指導にあたることができた。「学校のきまり」や「新羽スタンダード」も定期的に確認し、共通理解のもと対応した。 ②課題につながる行動については、学年や児童支援専任と連携し、早期解決に努めた。	A
特別支援教育	①児童理解を深め、保護者と課題を共通理解した上で個別の支援計画や指導計画を作成し、全職員で関わりながら支援・指導を行う。関係機関と連携を図り適切な指導を行う。 ②どの子も落ち着いて取り組めるユニバーサルデザインを意識した教室環境や授業づくりに取り組む。	①児童の特性を理解し、保護者との連絡を密にし、個別の手立てを取って対応した。リハセンターや通級指導教室との連携を図り、適切な指導方法を探ることもできた。 ②掲示物や板書を工夫することで児童が見通しをもてた。40人学級は、厳しい環境である。	B
保護者・地域住民との連携	①学校地域コーディネーターの周知をより確実に行い、地域の人材を活用した教育活動のサポートに対する手厚い支援体制を構築する。 ②毎月28日を「28（新羽）の日」として、小中合同で学校公開を行い「開かれた学校」を実現する。、	①学校地域コーディネーターの周知がしきれず、地域の人材を活用しきれなかった。昔遊びやわらへびでは、力を借りることができた。 ②「28（にっぱ）の日」を設定し、保護者や地域の方々に学校を見ていただく機会を作れた。しかし、参観者がいつも同じである。	B
学校運営協議会	①新羽小中学校運営協議会を充実させ、学校教育に対する理解を深めるとともに、地域と共に学校を作り上げていく関係を作り上げていく。 ②学校・地域・保護者それぞれの立場で協議し、課題解決の実効性のある協議会運営を行う。	①学校運営協議会に毎回多くの方が来てくださり、学校のことを考えてくださっている。学校からも、現状を知っていただけるよう、発信している。 ②具体的な行動を決めて取り組んでいけるような話し合いができると、さらに充実すると思われる。	B
チーム力を生かした学校運営	①学校評価の結果を受け止め、学校経営に活かすPDCAサイクルを確立する。 ②家庭・地域と連携した学校運営につながる積極的な情報発信を行うため、学校だよりや学校ホームページの充実と学年だより等のチェック体制を整える。	①アンケートをもとに、改善できるところは次年度に生かせるようにしている。 ②学校だよりでは、毎月、学年の児童の様子を写真とともに紹介している。学校ホームページは、役割分担があいまいな部分があり、整備しきれなかった。	B
いじめへの対応	①「いじめ防止対策委員会」を軸に情報収集して具体的指導を検討し、早期解決を図る。 ②子どもや保護者が相談しやすい、教職員が一人で抱え込まない仕組みや環境を整える。 ③教職員の研修や児童の情報共有を充実させ、全職員で未然防止・早期発見に努める。	①心配な事案があったときは、速やかに「いじめ防止対策委員会」を開いて対応を相談した。 ②面談のときだけでなく、いつでも話してもらえるように、聞く姿勢を示した。 ③児童指導委員会で話し合ったことを学年に伝え、全職員が情報を共有して児童とかか	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①学年や他の職員との情報共有をより密にする。学年研や重点研、更にはメンター研に参加しながら児童理解に叶った授業づくりや指導力の向上を図る。 ②会議日を有効活用し、教育活動に対する提案は組織内で十分確認しながらPDCAサイクルを全職員で周知し、学校運営に積極的に参加する	①指導案検討や事前研での話合いを活発にし、よりよい授業ができるようにした。 ②全校での大きな行事では、全職員が狙いを共通理解した上で、協力して運営できた。 ③一人当たりの仕事量が多く、勤務時間を超えて働いている。専門的な部分は、分担しきれない。	B
ブロック内評価後の気付き	昨年度から引き続いて、「自ら学び、ともに学び合う子どもの育成」をブロックテーマに掲げ、授業を参観し合ったり合同の研修会を行ったりした。また、「小中9年間で育成を目指す子どもたちの資質・能力」について、昨年度作成したものを見直し、完成させた。これらの取組により、新羽の子どもたちの伸ばすべきところを確認し、9年間一貫した授業、児童生徒指導をしていく意識をもつことができた。小中が目の前にあるという地の利を生かし、「引き取り訓練」や「28（にっぱ）の日」を合同で行ったことも、よい取組だった。来年度も連絡をこまめに取り、円滑な接続を図っていきたい。		
学校関係者評価	子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでいる。新羽は人数が少ない。その特徴を生かして学力向上につなげていってほしい。最近、人々が物事を考えなくなっている。失敗から学ぶこともあるので、何でも先回りして教えるのでなく、自分で判断することも大切にしてほしい。地域においても、ルールを守って生活できている。しかし、あいさつが少なかったり声が小さかったりする。上手にあいさつができるようになってほしいので、引き続き大人から声をかけていく。教員数が足りていないと聞いた。先生方が忙しいと子どもに影響がある。学校運営協議会として声を上げていきたい。		
中期取組目標振り返り	「子ども一人ひとりを大切にしながら、まちとともに歩む学校にします」という目標に向かって、職員が一丸となって教育活動に取り組んできた。確かな学力が身につくように、教材研究において学年で知恵を出し合った。児童がよりよく成長できるよう、情報を共有して複数で指導にあたった。学校を開くことで保護者や地域の方にも様子を知っていただき、共に児童を育てていただいた。多くの方々に温かく見守られ、児童はのびのびと過ごしている。けれども、主体的に考えて解決する力は弱いので、もっと引き出せるように工夫していきたい。		

重点取組分野	令和　2　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	① 学力・学習状況調査の結果をもとに、課題や児童の興味関心がどこにあるかを学年や専科と情報共有して、児童の学習意欲を高めて、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成を目指す。 ②身近な学習材を取り上げ、地域材・人材を活用した「社会に開かれた教育課程」を創造する。	①児童の実態や興味関心に合わせて、教材の工夫や課題の設定ができた。学力・学習状況調査の結果の活用が必要である。 ②地域の公園や寺、店などを活用して学習をすることができた。もっと校内で広めていきたい。人材は、感染症予防から最小限の関わりとなった。	B
豊かな心	①道徳の授業を通し、自らの課題としてとらえ、多面的な考え方ができる指導法を深める。 ②身近にある様々な人権にかかわる問題を職員が自分の問題として受け止め、積極的に課題解決に向かおうとする人権啓発研修に取り組む。	①行事や他の学習、日常生活の中の問題と道徳の教材を結びつけることで、自らの課題として意識を高めることができた。 ②一人一人を大切にし、安心して過ごせるように支援することができた。学校再開時には、人権配慮のスライドを視聴する機会を設けた。	B
健やかな体	① 目標をもって運動に取り組める内容の工夫と体育科の教育課程を体育館・校庭を連続して使用できるように編成することで、体力向上を図る。 ②学校保健委員会で食育を取り上げ、生涯にわたって健康な生活が送れるよう基本的な知識・習慣を身につける。	①ICT機器を使用したり学習カードを書いたりして自分の動きを振り返り、次の目標へつなげることができるよう支援できた。 ②学校保健委員会をテレビ放送で行い、全校で健康について考えた。手を洗う習慣はついたが、正しい手洗いの徹底をしたい。	B
児童生徒指導	①子どもの実態を細やかに把握し、情報共有を図るとともに、指導内容を確認し、一貫性のある指導に全職員で取り組む。 ②課題につながる行動については、全職員で情報共有し、組織的に対応して早期解決を図る。	①学年研や職員会議等で児童の様子を共有し、児童の実態や情報を理解した上で、職員が一丸となって指導することができた。 ②児童の気になる行動については、担任一人で抱え込まず、みんなで知恵を出し合って、早期解決を図った。	A
特別支援教育	①保護者と課題を共通理解した上で個別の支援計画や指導計画を作成し、全職員で関わりながら支援・指導を行う。関係機関と連携を図り適切な指導を行う。 ②落ち着いて学習に取り組めるユニバーサルデザインを意識した教室環境や授業づくりに取り組む。	①保護者の考えも取り入れて、個別の教育支援計画、指導計画を立てた。必要に応じて、取り出し授業をしたり外部機関と連携したりした。 ②黒板には余計なものをはらない、学習の流れを授業のはじめに提示するなど、集中して見通しをもって学習できるようにした。	B
保護者・地域住民との連携	①学校地域コーディネーターと連携し、地域の人材を活用した教育活動のサポートに対する手厚い支援体制を構築する。 ②毎月28日を「28（新羽）の日」として、小中合同で学校公開を行い「開かれた学校」を実現する。	①感染症拡大防止の観点から、地域の人材をあまり活用できなかった。交通安全教室は、お手伝いしていただいた。 ②新羽の日を実施できなかった。授業参観や運動会は、分散して公開することができた。来年度も、何ができるかを探っていきたい。	B
学校運営協議会	①新羽小中学校運営協議会を充実させ、地域と共に学校を作り上げていく関係を構築する。 ②学校・地域・保護者それぞれの立場で協議し、よりよい教育活動が実践できるよう課題解決に向けて実効性のある協議会運営を行う。	①感染症予防のため、日数を減らし、授業参観も行えなかった。委員の方々からは、学校の対応に理解と協力のご意見をいただいた。 ②日頃見守ってくださっている地域の方から児童の安全面に関するご意見をいただき、それぞれの立場でできることを考えた。	B
チーム力を生かした学校運営	①学校評価の結果や保護者からの意見を受け止め、学校経営に活かすPDCAサイクルを確立する。 ②家庭・地域と連携した学校運営につながる積極的な情報発信の充実を図る。 ③一人ひとりの強みが発揮できる学校組織を構築する。	①保護者アンケートや学校評価の結果を真摯に受け止め、改善できるように話し合った。 ②家庭との連絡を密にし、児童の様子や成長を伝えた。 ③一人一人の経験や特技が生きる組織になっていた。教科担任制も取り入れた。	B
いじめへの対応	①教職員の研修を充実させ、いじめや問題行動への感度を高めて未然防止・早期発見に努める。 ②子どもや保護者が相談しやすく、教職員が一人で抱え込まない仕組みや環境を整える。 ③「いじめ防止対策委員会」を中心に情報共有して具体的指導を検討し、早期解決を図る。	①研修で共通理解を図り、問題行動の未然防止や早期発見に努めることができた。 ②積極的に声をかけて、児童や保護者との良好な関係を作った。 ③定期的にだけでなく臨時の会も開くことで、早期解決を図った。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①学年や他の職員との情報共有をより密にする。学年研や重点研、メンター研等の機会を生かし、児童理解に基づいた授業づくりや指導力の向上を図る。 ②会議が有効に行えるように情報共有の工夫を図る。 ③PDCAを意識し、行事ごとの反省をいかして、	①学年研やメンター研でアイデアを出し合い、よりよい授業づくりをした。 ②創る会の資料をすぐに回覧し、早めに情報を知ることができるようにした。 ③前年度の反省をもとに計画を立てた。実施後の反省・改善案を次期に向け残した。	B
ブロック内評価後の気付き	今年度も、「自ら学び、ともに学び合う子どもの育成」をブロックテーマに掲げて教育活動を行った。感染症拡大防止のため、例年のような小中の交流はできなかったが、昨年度完成させた「小中9年間で育成を目指す子どもたちの資質・能力」を意識し、各学校で授業を行った。1月に行った小中合同会議では、教科ごとに集まって互いの取組を伝え合い、9年間を見通した学習の在り方について話し合うことができた。特色である合同引き取り訓練や新羽の日は行えなかったが、来年度は感染予防を前提とした実施方法を考えていきたい。		
学校関係者評価	今年度は、具体的に子どもたちや先生方からお話を聞く機会が無くなってしまったことが残念だった。これまでに経験のない状況の中で、「新しい生活様式」を取り入れていくことが様々な場面で言われているが、これまで大切に守られ、育てられてきた日本人の価値観や人としての原理原則は変えてはならないものである。知恵を出し合い、技術を用いて、これまでの仕組みや環境は変えながらも、その価値観を守るための「新しい生活様式」であるべきだと思う。教育の場である学校からは、そのために必要なハード面の環境整備の必要性を強く訴えていってほしい。		
中期取組目標振り返り	感染症の影響で制約の多かった令和2年度。どうしたら少しでも豊かな教育活動にできるかを模索した一年だった。学年研の時間を確保し、教材研究を念入りに行うことで、児童が主体的に学べるようにした。一人一人の児童が安心して生活できるよう、職員が情報を共有し、知恵を出し合って支援した。例年当たり前のようにやっていた行事は、やり方を変更して実施した。運動会は時期を変更したことで、かえって児童の関わりが深くなり、来年度以降のあり方を考えるきっかけとなった。可能な範囲で学校を開いたが、保護者・地域に協力していただく機会は少なかった。		

重点取組分野	令和　3　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	① 児童の興味関心や課題を把握し、児童の学習意欲を高めて、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成を目指す。②身近な学習材を取り上げ、地域の人材を活用した「社会に開かれた教育課程」を創造する。③ICTを活用した教育活動を創造する。	①単元や授業の開始時に、学習の見通しをもたせた。導入やワークシートなどを工夫し、児童の学習意欲を高めた。 ②学区の自然・施設・人材と関わって学習を進めることができた。 ③ロイロノートを用いて、考えを整理したり共有したりした。	B
豊かな心	①道徳の授業を通し、自らの課題としてとらえ、多面的な考え方ができる指導法を深める。 ②個性を認め合い、多様性がより豊かな文化を創ることを実感できる教育活動の創造する。 ③身近な人権問題を職員が受け止め、積極的に課題解決に向かう人権啓発研修に取り組む。	①児童の実態に合わせて指導する内容項目を選んだが、多面的な考えを引き出すのが難しかった。 ②一人一人の活躍の場を多く設け、認め合える学級風土を作った。 ③人権について考える週間を位置づけ、児童とともに人権感覚を磨いた。	B
健やかな体	① 目標をもって運動に取り組める内容の工夫と体育館・校庭を連続して使用できる体育科の教育課程の編成により、体力向上を図る。②学校保健委員会で食育を取り上げ、生涯にわたって健康な生活が送れるよう基本的な知識・習慣を身につける。	①動きを動画に撮ることで、次の目標を決め、進んで取り組めるようにした。コロナの影響で体育の時数が減り、思うように体力向上を図れなかった。 ②好き嫌いなく食べることが体によいことを理解させることができた。実際の食事の量はあと一歩である。	B
児童生徒指導	①子どもの実態を細やかに把握し、情報共有を図るとともに、指導内容を確認し、一貫性のある指導に全職員で取り組む。 ②課題につながる行動については、全職員で情報共有し、組織的に対応して早期解決を図る。	①スタンダードをもとにして、全職員が同じ指導をした。個々の実態について得た情報は、その日のうちに学年内や専任と共有した。 ②課題につながる行動について、速やかに聞き取りをして、対応策を考えることができた。	A
特別支援教育	①保護者と課題を共通理解した上で個別の支援計画や指導計画を作成し、全職員で関わりながら支援・指導を行う。関係機関と連携を図り適切な指導を行う。 ②落ち着いて学習に取り組めるユニバーサルデザインの教室環境や授業づくりに取り組む。	①保護者との連絡を密にして、課題を共通理解した上で支援を行った。関係機関から専門的なアドバイスをもらい、指導に生かした。 ②教室は掲示物を整えたり整理整頓をしたりして、刺激のない環境にした。1時間の流れを視覚的に示した。	B
保護者・地域住民との連携	①学校地域コーディネーターと連携し、地域の人材を活用した教育サポート体制を構築する。 ②毎月28日を「28（新羽）の日」として、小中合同で学校公開を行い「開かれた学校」を実現する。 ③コロナ禍で中断した地域との協力体制を再構築する。	①コロナ禍で、活用できていない。 ②例年行っていた「28（にっぱ）の日」は実施せず、授業参観と運動会の参観を工夫して行った。 ③今年度も行うことができていない。	B
学校運営協議会	①新羽小中学校運営協議会を充実させ、地域と共に学校を作り上げていく関係を構築する。 ②学校・地域・保護者それぞれの立場で協議し、よりよい教育活動が実践できるよう課題解決に向けて実効性のある協議会運営を行う。③コロナ禍後の学校行事・地域行事を検討する。	①コロナの影響で、回数が減ってしまった。 ②第1・2回とも、紙面での報告を行った。年度末には、運営委員の方々からご意見を伺い、今後に生かしていくことにしている。 ③来年度に向けて、学校行事の時期や実施方法を検討した。オンラインをさらに活用したい。	B
チーム力を生かした学校運営	①学校評価の結果を受け止め、学校経営に活かすPDCAサイクルを確立する。 ②家庭・地域と連携した学校運営につながる積極的な情報発信の充実を図る。 ③一人ひとりの強みが発揮できる学校組織を構築する。	①アンケート結果をもとに、改善できることを話し合い、実行できるようにした。 ②学校だよりを通して、児童の様子や学校の取組を伝えた。 ③適切な役割分担に向け改善を図りたい。	B
いじめへの対応	①研修を充実させ、いじめや問題行動への感度を高めて未然防止・早期発見に努める。 ②子どもや保護者が相談しやすく、教職員が一人で抱え込まない仕組みや環境を整える。 ③「いじめ防止対策委員会」を中心に情報共有して具体的指導を検討し、早期解決を図る。	①研修を生かして、問題行動が起こりにくい環境づくりを行った。児童の様子をよく見て、小さな変化にも気づけるようにした。 ②傾聴の姿勢で児童や保護者と接し、いつでも話ができる信頼関係をつくった。 ③毎月委員会を行い、情報共有を図った。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①重点研、メンター研等の機会を生かし、児童理解に基づいた授業づくりや指導力の向上を図る。 ②情報共有の工夫を図り、短時間・効果的な会議で業務の円滑化と職員の負担軽減を図る。 ③PDCAを意識し、行事ごとの反省をいかして、学校運営に参加する体制を構築する。	①重点研でICTの使い方を取り上げ、教職員だれもが活用できるようにした。 ②ミライムやGoogleクラスルームを利用し、打合せの時間を短くした。定時を守りたい。 ③計画を立てる際、昨年度の反省を生かして考えることができた。	B
ブロック内評価後の気付き	「自ら学び、ともに学び合う子どもの育成」のテーマのもと、今年度も小中で連絡を取り合って、教育活動を進めた。5月の小中合同会議では、児童生徒の実態や課題について確認したり、コロナ禍での学習の工夫について情報交換をしたりした。夏には、互いの授業の参観も行い、学びの場や活動の実際などについて相互理解を深めた。そして9年間連続した学びになるように努力できた。合同引き取り訓練や「28（にっぱ）の日」の開催について、コロナ禍でもできる方法を考えていきたい。		
学校関係者評価	昨年度に引き続き、学習の様子を参観したり、先生方と話し合ったりする機会がもてなかったのは残念だった。今の状況が、この先どのように変わっていくかは分からない。地域・保護者としてどのようなことができるかについて、学校の意見を聞きながら考えていかなければならない。今後、防災教育や情報教育の必要性がこれまで以上に高まっていくと考えられる。地域としてできることがあれば学校からも声をかけてほしい。また、一人一台貸与されたIpadについては、端末がどのように利用されているか、また家庭での捉えや要望についても明確にし、発信していってほしい。		
中期取組目標振り返り	今年度も感染症予防のため、活動を縮小しての教育となった。音読朝会や音楽会は中止せざるを得なかった。けれども、運動会では昨年度より種目を多くし、時期を選んで校外学習に行くなど、できる限りの活動は行った。日々の学習を大切にし、児童の実態を把握し、地域の材を生かしつつ、基礎的な学力が身につくように支援した。ICTの活用方法も探った。児童一人一人の健やかな成長のため、全職員が協力し、複数の目で見守るようにした。保護者・地域の理解と協力のもと、児童はすくすくと育っている。		